

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
人間文化学部心理コミュニケーション学科	村田 明日香	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

【前期】

人体の構造と機能及び疾病 | 学部 | 学科 | クラス
神経生理心理学 A | 学部 | 学科 | クラス
心理学概論 | 学部 | 学科 | クラス
心理学実験 A | 学部 | 学科 | クラス
こころの科学的探求 2 学部 4 学科 4 クラス
知的障害の認知心理学 | 学部 | 学科 | クラス
プレインターンシップ | 学部 | 学科 | クラス
特別支援学校教育実習 | 学部 | 学科 | クラス
特別支援学校教育実習事前事後指導 | 学部 | 学科 | クラス
専門演習 ACg | 学部 2 学科 4 クラス
卒論指導演習 1 | 学部 2 学科 2 クラス
生理心理学特論 | 研究科 | クラス
研究演習 II | 研究科 | クラス

【後期】

基礎ゼミナール 2e | 学部 2 学科 2 クラス
神経生理心理学 B | 学部 | 学科 | クラス
心理学実験 B | 学部 | 学科 | クラス
知的障害児・者生理心理学 | 学部 | 学科 | クラス
卒論指導演習 2 | 学部 2 学科 2 クラス
卒業論文 | 学部 2 学科 | クラス
神経生理学特論 | 研究科 | クラス
研究演習 I | 研究科 | クラス
修士論文 | 研究科 | クラス

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

偏差値に関わらず、自分の頭で考え、感じ、行動できる日本一「軽やかな」人材を育成したい。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

【責務】に記した担当授業科目のうち、「心理学実験 A/B」、「専門演習 ACg」、「基礎ゼミナール 2e」、「卒論指導演習 1」、「卒論指導演習 2」、「卒業論文」、「研究演習 I / II」、「修士論文」をのぞく授業を遠隔オンデマンド形式で実施している。

コロナ禍を経て大学における授業形態や学び方、ライフスタイルも大きく変化した。これに伴い、学生の学習も決められた時間や場所に縛られることなく、自主的に学びを獲得するべく行動できる人材を育てる必要がある。

そこで、講義形式の授業は遠隔オンデマンド形式で実施している。

遠隔オンデマンド形式では、教員(村田)が毎週の授業時間に授業教材を WebClass 上にアップし、学生が自分のペースで学習する。ただし、学習にはリズムが重要であるため、毎週小テストや小課題を提示している。

一方、対面で行う授業は実習や演習科目であるため、学生の積極的な授業参加を促している。

例えば「専門演習 ACg」では、実験心理学を専門とする教員(村田)の専門性を活かし、授業内のグループワークで実験立案・準備・実施をひとつおりに行っている。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

【遠隔オンデマンド形式の授業】

この形式のメリットは、自分で学習をスケジュールするスキルが身につくこと、不明な点があれば教員にコンタクトを取る必要があることから自発的行動が促進されること、ICT 学習への適応度が高まることが挙げられる。

【対面授業】

同じく実験系の「心理学実験 A/B」では与えられたテーマを正しい手続きで実施することを求められる学生も、「専門演習 ACg」では自身の興味関心を意義のある研究テーマに昇華する経験をすることで、体感とともに「心理学」を理解することができる。

実際、最初は全く実験のことがわからなかった学生が卒業論文に等しいレベルの実験を計画できるようになっている。

さらに、本科目では小グループのメンバーとして積極的に授業に取り組む環境を設けているため、学生の論理性と創造性も高まっている。

【目標】(今後どうするか)

引き続き、軽やかな人材の教育に取り組みたい。

複数の授業を通じて、多くの学生に創造力と創造力が欠けているように見えていたが、奥に潜んでいるだけであった。

今後も彼らが押し込められたスキルや感覚をのびのびと発揮できるような場を提供しながら、専門性の高い知識と柔軟な学び方を提供していきたい。